

# 経済・金融 フラッシュ

## 景気ウォッチャー調査(15年8月)

～停滞感が一段と強まる

経済研究部 研究員 岡 圭佑

TEL:03-3512-1835 E-mail: koka@nli-research.co.jp

	景気の現状判断(方向性)					景気の先行き判断(方向性)				
	合計	季節調整値	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	季節調整値	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連
14年1月	54.7	56.0	52.2	57.7	64.2	49.0	47.9	46.8	52.0	56.8
2月	53.0	53.4	50.2	57.0	62.6	40.0	40.0	36.7	45.1	50.5
3月	57.9	53.4	57.0	58.4	62.8	34.7	34.2	31.3	39.0	47.1
4月	41.6	37.8	37.2	48.5	55.9	50.3	48.2	49.8	49.9	54.4
5月	45.1	43.0	42.1	47.4	59.3	53.8	51.7	53.1	53.5	58.6
6月	47.7	46.5	45.1	50.3	57.9	53.3	51.8	52.3	53.6	59.2
7月	51.3	49.0	49.4	53.9	57.7	51.5	50.8	50.0	53.0	57.8
8月	47.4	48.2	45.8	48.5	55.3	50.4	51.1	49.3	51.6	55.3
9月	47.4	48.9	46.7	47.9	51.2	48.7	49.1	48.0	49.1	52.9
10月	44.0	47.6	42.3	46.2	50.0	46.6	48.3	45.4	48.3	50.4
11月	41.5	45.8	39.5	44.6	47.6	44.0	47.6	42.5	46.1	49.3
12月	45.2	46.9	44.2	46.6	49.0	46.7	48.1	45.0	49.3	51.2
15年1月	45.6	46.8	43.9	46.7	54.8	50.0	49.1	48.4	51.8	57.1
2月	50.1	50.7	48.4	51.1	59.1	53.2	53.4	52.4	53.4	57.3
3月	52.2	48.0	50.9	52.7	59.4	53.4	53.3	53.1	52.0	58.7
4月	53.6	50.0	53.2	52.8	58.1	54.2	52.5	53.9	53.1	59.5
5月	53.3	51.2	53.6	50.2	58.5	54.5	52.5	54.3	53.7	57.8
6月	51.0	49.7	50.4	51.3	54.7	53.5	52.0	52.9	53.9	56.6
7月	51.6	49.3	50.8	52.4	55.7	51.9	51.1	51.3	51.9	56.0
8月	49.3	50.0	48.8	48.3	55.2	48.2	48.5	47.4	48.7	52.7

(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

(注) 「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種(小売関連、飲食関連、サービス関連など)の景気判断、企業動向関連業種(製造業、非製造業など)の景気判断、雇用関連業種(人材派遣業、職業安定所など)の景気判断を示す

### 1. 景気の現状判断 DI: 停滞感が一段と強まる

9月8日に内閣府から公表された15年8月の景気ウォッチャー調査によると、景気の現状判断DIは49.3となり、前月を▲2.3ポイント下回った。参考系列として公表されている季節調整値は50.0と前月を0.7ポイント上回り、3ヵ月ぶりの改善となった。

景況感はこちら数ヶ月足踏みが続いていたが、原数値が15年1月以来7ヵ月ぶりに好不況の分かれ目である50を下回るなど、景況感は停滞感を一段と強めている。プレミアム付商品券が引続き個人消費を下支えしているものの、世界同時株安のきっかけとなった中国景気に対する不透明感が色濃く反映される結果となった。景況感は悪化基調に転じたと判断するのは早計だが、中国景気の先行きに対する不透明感が依然根強いことに加え、円安による材料価格の高騰を懸念する声もあり、今後の動向に注意が必要だ。

## 2. 中国の景気減速・株安で景況感は弱含み

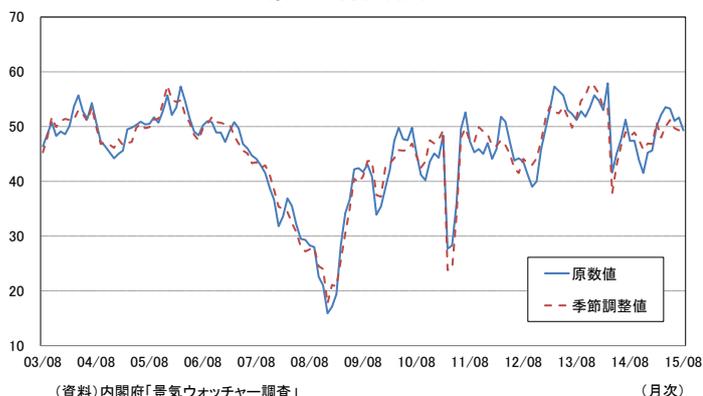
現状判断 DI の内訳をみると、家計動向関連が前月差▲2.0 ポイント、企業動向関連が同▲4.1 ポイント、雇用関連が同▲0.5 ポイントとなった。

家計動向関連は、小売を中心に改善基調にやや足踏み感がみられる。コメントをみると、「プレミアム付商品券の発行に伴い、一般消費そのものは微増の傾向にある」（東北・一般小売店）などプレミアム付商品券による消費押し上げのほか、「今年の場合はお盆の期間が短かったが猛暑の影響もあり、夏物商材は前年と違って顕著に良く売れたと思う」（北陸・スーパー）など猛暑による特需を改善要因として挙げるコメントがみられる一方で、「ここにきて中国の景気減速の影響か、株価が下がり、景気減速とまでいかないが、これまで伸びてきた勢いがなくなり、停滞感が出てきた」（南関東・商店街）など中国の景気減速を懸念するコメントが多く見受けられた。中国景気に対する不透明感の高まりを受けて世界同時株安となった時期が調査期間（8月25日～31日）と重なったこともあり、中国の景気減速や株安の影響を懸念する声が目立つ。また、円安の影響については「円安の影響による値上げに加え、野菜の高騰などもあり、景気が上向いているとは言い難い」（近畿・スーパー）など物価上昇による購買力の低下を懸念する声も依然多い。

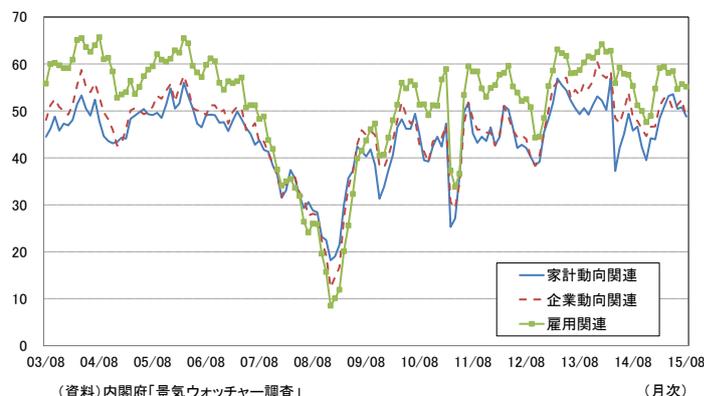
企業動向関連は、製造業（前月差▲4.1 ポイント）、非製造業（同▲2.8 ポイント）ともに前月から悪化した。「引き合いがほとんどなくなってきている。世界中の景気が落ち込んできているのが一番の原因である」（南関東・電気機械器具製造業）といったコメントのように、中国など世界的な景気減速への懸念が高まっている様子が見て取れる。また、「円安による原材料の値上げに伴う商品の価格アップの影響で、個人消費は良くなっていない」（北陸・輸送業）など円安を懸念する声も目立つ。

雇用関連は、小幅ながら 2 ヶ月ぶりに悪化するも高水準を維持している。「雇用が正規か非正規かに関らず好調で、求職者が少なくなっている」（九州・人材派遣会社）など、企業の採用意欲の高さが伺えるコメントが多い一方で、「中国経済の動きに伴う世界同時株安の影響がある」（東海・人材派遣会社）といったコメントのように、中国の景気減速が雇用の一段の改善を抑制するとの懸念も高まっている。

景気の現状判断DI



景気の現状判断DI(分野別、原数値)



### 3. 先行きは3ヵ月連続で悪化

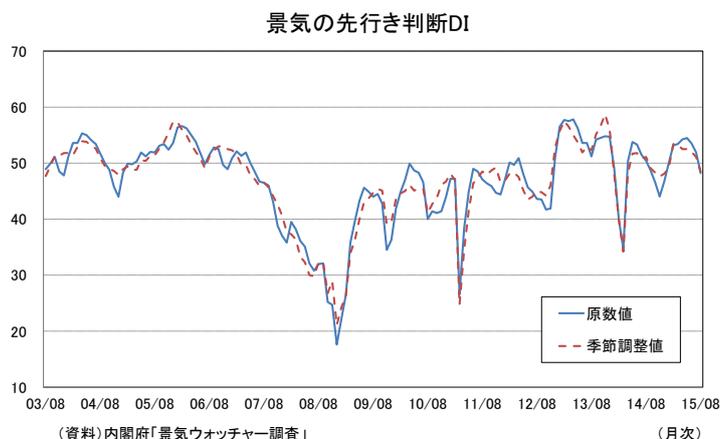
先行き判断DIは48.2と前月から▲3.7ポイント低下し、3ヵ月連続の悪化となった。参考系列として公表されている季節調整値は48.5と前月から▲2.6ポイントの低下となった。先行き判断DIの内訳をみると、家計動向関連が前月差▲3.9ポイント、企業動向関連が同▲3.2ポイント、雇用関連が同▲3.3ポイントとなった。

家計動向関連は、「プレミアム付商品券およびプレミアム付旅行券の販売状況から、先行きの景気若干良くなるのではないかと期待をしている」（東北・通信会社）など、引き続きプレミアム付商品券による消費押し上げ効果を期待する声が多いほか、「9月にはシルバーウィークがあり、10～11月にかけては秋の旅行シーズンを迎えるため、販売量は増加する」（北関東・旅行代理店）といったコメントのように、シルバーウィークによる需要拡大を期待する声も多い。一方、「中国のバブル崩壊に伴い、国内の株式市場や円相場への影響が生じることになれば、心理的な面からも、個人消費に影響が出ることが懸念される」（北海道・商店街）など、中国の景気減速に対する不安が根強いようだ。

企業動向関連は、「世界経済、特に中国経済の悪影響が日本経済にも表れるとみている」（東北・食品製造業）など中国の景気減速の影響を懸念するコメントが多いほか、「円高傾向が続けば、売上への影響が懸念される」（東海・電気機械器具製造業）といったように、円高による企業収益への影響を不安視するコメントも見受けられた。

雇用関連は、人手不足を懸念する声が高まる中で「中国経済をはじめ、外的要因による国内経済への影響を懸念している。国内については依然として求人市場は大手から中小まで活況である。ただし、企業の人材不足感が深刻化しており、今後、国内の景気上昇の足かせとなることを懸念している」（南関東・人材派遣会社）といったように、中国の景気減速を新たな懸念材料として指摘するコメントが散見された。

個人消費の低迷が続く中、株高による資産効果やインバウンド効果が景況感の下支えとなっていたが、中国の景気減速に対する不安が急速に高まったことが景況感の下押し要因となっている。景況感を大きく押し上げる材料が見当たらない中で、根強い中国景気の先行き不安や株価の下落が収まらなければ、景況感は悪化基調に転じる恐れがあるだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。